

ヨハネの福音書 第8章 12節

「イエスはまた彼らに語って言われた。『わたしは世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』」

秋になりベランダからの陽光はだいぶ柔らかくなった。少し前の、熱く照りつけるような陽の光とは異なってきた。灼熱の光から温もりの光へと変わる。そればかりか、朝の光、昼の光、そして夕暮れの光と、一日のなかで光の展開が変化する。光の変化に伴い、照らし出される風景や人の姿が変わって見える。光がもたらす芸術である。照らされているものたちはまったく意識することなく日々を過ごしている。

ここでの光は特別だ。「わたしは世の光です」と宣言する。この光の源がどこなのか明言する。ほかのどこでもなく、わたしは世の光。イエスが世の光である。朝日とともに照らされるとは大部異なる光である。出会う光だ。出会うお方が照らし出されるひかりでもある。そして、光であるわたしに従うことに招く。

この光は宵闇に隠れる光と異なる。この光はどのような人生のやみにおいても消えず、むしろこの光はやみにあっても輝くいのちである。イエスの言われるみことばを信じ、歩む者に灯り続ける永遠の光だ。

2021年10月15日